

聖ラ・サールの日 (2026.5.15)

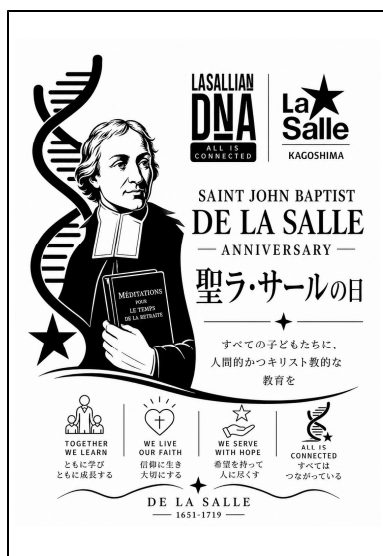
1950年5月15日、聖ラ・サールはローマ法王から「すべての教育者の守護聖人」として認められました。それを記念して、私たちは5月15日を聖ラ・サールの日として世界中のラ・サールスクールでお祝いし、教育を通じてよりよい社会を作ろうとした聖ラ・サールの志を偲びます。併せて、この日は、私たちが世界80カ国、約1000校のラ・サリアンファミリーの仲間とのつながりを感じる日でもあります。

本校では、例年この日に合わせて講演会や芸術鑑賞を行います。今年はアメリカ・カリフォルニア州のデ・ラ・サール高校を舞台とした『コーチ ラドスール 無敵と呼ばれた男』という映画を鑑賞しました。

それに先立ち、校長が「聖ラ・サールは、すべての子どもたち、とくに困難な中にある子どもたちが、希望をもって学び、成長できるように生涯をささげました。私たちも、ラ・サリアンファミリーの一員として、学ぶこと、人を大切にすること、そして人のために行動することの意味を、静かに考えましょう」とこの日の意義を語り、ついで、ロザリオ会のメンバーにより聖書のことばが読み上げられ、共同祈願が行われました。

映画は実話に基づき、常勝のラグビーチームが様々な事情でついに敗れ、解体寸前まで追い込まれながら、そこから復活を目指す物語で、舞台が本校ゆかりの学校だったこともあって、多くの生徒が最後まで熱心に鑑賞していました。

このように、私たちが聖ラ・サールが作った学校の一員たることを再確認する場として、この日の式典はとて意義深いものになりました。



当日のパフレット表紙



生徒に語りかけるアントニオ校長



映画ポスター



ロザリオ会による朗読



映画鑑賞